

博多とアジアの映画(98)

松浦 仁

この連載では、博多(福岡市)でアジアの国・地域製作の映画がどのようにして上映され、やがて福岡市がアジア映画の拠点として機能し始めるのかを時代を追って検証してきた。映画館で上映されたほとんどのアジア映画は東京に本社をおく映画配給会社が輸入・配給し、一地方都市である福岡市にも配給され、九州の映画産業の中心であった博多・中洲の映画館で上映された。

しかし、日本の映画館入場者数や映画館数が最高値を記録した50年代まではアジアの映画は映画館で上映されることはなかった。60年代もインド映画「大地のうた」が唯一公開されただけだった。70年代にはいるとブルース・リー主演の香港カンフー映画がヒットし、さらにブルース・リーに続く香港映画のスター、ジャッキー・チェンが輩出されて、80年代初めには香港映画が洋画や邦画を凌ぐ勢いで上映された。映画館で上映されるアジア映画といえば、ほとんどが香港で製作されたカンフー・アクション映画だった。

前号で「1981(昭和56)年は、ジャッキー・チェンの人気とはいえず、香港映画が映画館で頻繁に公開され、ハリウッド映画に劣らない興行収益をあげ、香港映画を広くアジア映画として括れば、(日本(福岡市も含まれる)とアジア

映画)の起点となった年だった」と記した。しかし、翌年の1982(昭和57)年こそが、福岡市がどの地方都市よりも多くアジア映画を映画館だけでなく自主上映や映画祭を開催することで、アジア映画の拠点都市になるきっかけとなる年だった。この年、国際交流基金が企画し国内各所に巡回した「南アジア名作映画祭」が福岡市でも開催された。インド、スリランカ、インドネシア、タイ、フィリピンの劇映画11作品は、唯一サタジット・レイ監督のインド映画が初めて見るアジア諸国で製作された映画だった。福岡市(教育委員会)はアジア映画をはじめ本格的に紹介したこの映画祭を全市的に取り組み、所管する福岡市美術館をメイン会場に東、中央、南、西の4つの市民センターと少年科学文化会館で上映して、多くの市民が観賞できる機会を提供した。こうして福岡市はこの映画祭の開催を第一歩としてアジア映画の拠点都市としての道を歩むことになる。

1982(昭和57)年も香港映画は福岡市内の映画館で上映された。とくにジャッキー・チェン主演のカンフー・アクション映画の勢いは続いていた。

まず、「バトルクリーク・ブロー」(1980)が天神劇場で2月18日から24日

まで上映された。「バトルクリーク・ブロー」は、ジャッキー・チェンがアメリカ進出を果たし、世界的なスーパースターへの道を踏み出す第一歩となったアクション映画だった。すでに1980(昭和55)年に福岡東宝、ステーションシネマ、西新アカデミーで公開されていた。天神劇場では「コンコルド」(1979)との2本立てだった。「コンコルド」は現代の怪鳥と呼ばれる超音速旅客機コンコルドをめぐる、巨大な陰謀と利権が炸裂する航空機戦争を描いたアメリカ映画だった。

天神劇場での「バトルクリーク・ブロー」終映後の2月27日からは「龍拳」(1978)が福岡東映で公開された。3月12日までの上映だった。「龍拳」は、ジャッキー・チェンが香港の四維公司(ローウェイプロダクション)と専属契約していた頃に主演した作品の1本で、四維会社が思遠影業公司(シーゾナルフィルム)とジャッキー・チェンを出向させて主演映画2本を製作するという契約を結び、思遠影業会社が製作した1本目の作品である「ドラクモンキ― 酔拳」(1978)と同時進行で四維会社が思遠影業公司との契約を無視して製作した作品だった。

純朴で善良な若者、タン(ジャッキー・チェン)は、師匠でもある養父が傍若無

人の猛威を奮う拳法家に殺されてしま
う。タンは復讐に燃え、師匠の秘技龍
拳を独学で習得し、拳法家が住む百忍
道場に向くが、拳法家はすでに戦闘
能力を失い、過去の暴力を改心してい
た。

「龍拳」は、単純な勧善懲悪のスト
ーリーではなく、かたき討ちを断念し
た主人公の葛藤に焦点が当てられてい
る。思遠影業会社が製作した2本のジ
ャッキー・チェン主演作「ドラクモ
ンキー 酔拳」「スネーキーモンキー
蛇拳」は香港で公開された後、日本で
すぐに公開されたのだが、1979(昭
和54)年に香港で公開された「龍拳」は
日本では公開されていなかった。19
82(昭和57)年になってようやく、東
映が輸入・配給して日本各地で公開さ
れた。2月20日に東京で公開され、1
週間後に福岡で公開された。「忍者武芸
帖百地三太夫(1980)」との2本
立てだった。

「忍者武芸帖百地三太夫」は、伊賀
忍者の頭領、百地三太夫の一族が秀吉
配下の甲賀忍者に滅ぼされて10余年、
中国に渡った三太夫の遺児、鷹丸は武
芸の修行に励み、カンフーと忍術で敵
討ちを果たす東映の時代劇アクション
映画で、真田広之の初主演作だった。
1980(昭和55)に公開され、19

82(昭和57)年に再上映された。

「龍拳」と「忍者武芸帖百地三太夫」は、
「ドラクモンキー 酔拳」との3本立
てで4月5日から4月15日まで香椎セ
ントラル、5月15日から6月4日まで
筑紫東映で上映された。また、「龍
拳」は香椎セントラルの終映から
筑紫東映での上映の間に、4月30
日から5月7日までステーション
シネマで上映された。ステーション
シネマは博多駅ビルにあつて低
料金で1作品のみを上映する名画
座で、「龍拳」のみの上映だった。

その後「龍拳」の上映は、中洲に
もどって5月29日から6月18日ま
で福岡グラントで上映された。「キ
ャノンボール」(1980)との2
本立てだった。「キャノンボール」
は、アメリカの20世紀フォックス
と香港の嘉禾電影有限公司(ゴー
ルデン・ハーベスト)が製作したア
メリカと香港の合作映画ではある
が、アジア映画ではなくハリウッ
ド映画だった。

「キャノンボール」は、世界の名
車、高級車に乗ったスピード狂たちが
競つ北アメリカ大陸横断5千キロのカ
ーレースへキャノンボールをドラマテ
ィックかつコメディタッチで描くカー
アクション映画だった。ロジャー・ムー

ア、フアラ・フォーセット、バート・レイ
ノルズ、ディーン・マーティン、サミー・
デイビス・ジュニア、ピーター・フォン
グといった早々たるハリウッド・スタ
ーが出演している。さらに、香港から



ジャッキー・チェンとマイケル・ホイ
が出演していて、日本のマシン(レスバ
ル・1600スウィングバック4W)の
ドライバーをジャッキー・チェン、
システムエンジニアをマイケル・ホイ

が演じている。二人とも日本人の役だ
った。

「キャノンボール」は1981(昭和
56)年にアメリカと香港で公開され、日
本では東宝東和が輸入・配給して同
年の12月末から翌年1月にかけて東宝
系映画館の正月映画として全国公開さ
れた。福岡グラントでの上映は再映だ
った。日本における興行収入は23億円
で1982(昭和57)年の邦画、洋画
を含めた年間興行収入3位で、「レイタ
ース 失われたアーク《聖櫃》」「ロッキ
ー3」を上回った。ちなみに1位は「ミ
ラクルワールドフッシュマン」23億円、
2位は「セーラー服と機関銃」23億円
だった。

1982(昭和57)年、ジャッキー・
チェンは監督、主演の「ドラゴンロー
ド」を製作した。ジャッキー・チェン
は、「バトルクリーク・ブロー」(198
0)に主演してハリウッドに進出し、
全米週末興行収入成績第1位(198
0年8月29日〜9月1日)を記録した
のだが、ブルース・リー主演の「燃え
よドラゴン」を監督し、「死亡遊戯」を完
成させたロバート・クローズ監督の演
出に不満を抱き、自分らしきを出せな
かったことを後悔していた。

＝ 図版は、「キャノンボール」＝
(次号に続く)